

5. 羽化直前の蛹の性比

現在、筆者はヒゲナガカワトビケラ個体群の研究に取り組んでおり、生活環を通しての個体数の変動を10世代継続して観察することに成功した。これらの成果については、断片的ではあるが何回か報告してきた（西村 1975, 1976, 1977, 1978 a, 1978 b）。

個体群研究の1つの目標に、生命表の作成があげられるが、そのための基礎資料の1つとして、羽化直前の蛹の性比をしらべたので、その結果をここに掲げておきたい。

本種について、羽化直前（多くの場合、1～7日後には羽化すると推察された）の蛹を採集し、その性比をしらべた結果が表1である。表1に示すように、49回の採集で得られた蛹は326個体で、その内訳は168♀、158♂である。

$$\text{♀} : \text{♂} = 168 : 158$$

$$\text{♀} : \text{♂} = 51.53 : 48.47$$

上の結果からみれば、蛹の性比は、♀ : ♂ ≒ 1 : 1とみてよいようである。

表1 羽化直前の蛹の性比

採集年月日	♀	♂	採集年月日	♀	♂
'74. VIII. 11	1	3	'75. VI. 7	0	1
IX. 1	1	4	VI. 15	1	1
IX. 7	6	5	VIII. 31	1	0
IX. 12	2	1	IX. 15	2	1
IX. 19	2	0	'76. III. 6	0	1
IX. 27	0	1	IV. 1	4	1
X. 25	1	0	IV. 18	2	1
XI. 10	0	1	V. 3	1	1
XI. 23	1	0	V. 9	1	0
'75. 11. 9	1	0	VIII. 15	2	2
III. 9	0	2	X. 11	1	0
III. 27	5	8	'77. III. 21	6	8
" " "	8	10	" " "	17	13
IV. 15	15	9	IV. 3	19	11
" " "	11	15	" " "	11	6
IV. 26	8	8	IV. 17	8	8
V. 5	3	9	" " "	8	6
V. 11	4	7	V. 8	3	2
" " "	1	3	" " "	0	1
V. 13	0	2	V. 16	0	1
V. 18	1	1	" " "	1	1
" " "	0	1	V. 28	0	1
V. 25	1	0	VI. 11	5	0
" " "	1	1	VI. 20	1	0
VI. 7	1	0			

合計 168 158
性比 51.53 48.47

文献（雑誌3～5をまとめて記す）

NISHIMURA, N., 1966. Ecological studies on the net-spinning caddisfly, *Stenopsyche griseipennis* McLachlan. 1. Life history and habit. MUSHI, 39:103—114.

西村登. 1969. 潜水の名手—ミズバチとトビケラ, 続・兵庫の自然. のじく文庫, 199—200.

——. 1975. 川の平瀬の2つの型とヒゲナガカワトビケラ個体群の動態. 日生態大会講演集（京都）。

——. 1976. 円山川におけるヒゲナガカワトビケラ個体群の密度変動とその要因, 日生態大会講演集（名古屋）。

——. 1977. ヒゲナガカワトビケラの生態学的研究, 3. 上流域個体群の年変動とその要因—とくに分布と産卵飛翔について. 日生態大会講演集（広島）。

——. 1978 a. 同上, 4. 中流域における個体数の変動—ひらせⅠとひらせⅡの比較. 日生態大会講演集（福岡）。

——. 1978 b. ヒゲナガカワトビケラの生息場所と個体群動態. 個体群生態学会会間No.31, 7—12.